朝日新聞 2023.1.26(木)
第3種郵便物認可

細胞検査士の卵集う

九州保健福祉大

延岡市にある九州保健福祉大学の「細胞検査士」を養成するコースが注目を浴びている。がんの細胞を、高性能の顕微鏡で見つけ出す資格を九州で唯一、4年間で取得でき、各地から学生が集まっている。

顕微鏡を前に似田さん（中）を指導する三苫学部長（右）ら＝延岡市吉野町の九州保健福祉大学

九州唯一 がん発見資格を4年間で取得

がん細胞をいかに早く発見するかを使命とする細胞検査士は現在、国内で約6千人が資格を持つ。従来、認定試験を受けるためには臨床検査技師や衛生検査技師になって1年以上の実務経験が必要で、受験まで最低6年ほどの期間が必要だった。

ただ、国民の2人に1人ががんになり、3人に1人が亡くなるという時代。国の方針で臨床検査技師と細胞検査士の両方の資格を4年間の課程で取得することが可能となり、1982年に導入した杏林大学（東京）が第1号となった。

大学での育成は2010年以降、全国で拡大。現在では14大学に資格を取得できるコースがある。九州保健福祉大学も15年、九州では唯一、生命医科学部でカリキュラムがスタートした。以来7年間で29人の細胞検査士が誕生し、全国の大学病院などで働いている。現在では九州だけでなく、関東、関西、さらに東北から入学してくる学生も多い。

細胞検査士の基本的な仕事は、子宮頸がんや肺がん検診などで採取された細胞を染色し、高精度の顕微鏡で微細に観察して「がん細胞」や「怪しい細胞」を見つけ出すことだ。その結果を、診断する医師に報告する。

生命医科学部4年生の似田茜さん(21)＝日向高出身＝は今年度の試験で細胞検査士に合格し、春から東京の大学病院で働き始める。「細胞検査士になるために、この大学に入りました。がんは早期発見が大切。一生をかける価値がある仕事と思う」と話す。

生命医科学部の三苫純也学部長は「がんの治療は手術技術、放射線治療、抗がん剤治療、新しい免疫治療などで日進月歩で進化しているが、なにをさておき、まずは早期発見。がん対策の最前線で活躍できる細胞検査士を育てたい」と話している。

（石川雅彦）